

日本には、春・夏・秋・冬という季節があります。四季にはそれぞれ特徴があり、1年を通して移り変わりを、みなさんも自然に感じとっているのではないのでしょうか。昔から四季の変化については、日記に記されたり短歌・俳句などによまれたりしてきました。公家や文人たちの日記から、当時の紅葉の時期を現代の暦に換算し推定したものがありません。平安時代の藤原道長は10月28日、鎌倉時代の藤原定家は11月7日、江戸時代後期の頼山陽は11月11日に京の都で紅葉をめでたとされています。現在の京都で紅葉の見頃は、11月下旬～12月上旬なので、これに比べるとかなり早いことがわかります。さらにみていくと、江戸時代後期から見ごろはどんどんおそくなり、戦後の高度成長期以降は、紅葉を報じる新聞記事が11月後半に集中しています。これは、都市温暖化（ヒートアイランド現象）や地球温暖化の影響と考えられます。このまま温暖化が進めば、年末や年明けが紅葉シーズンになってしまうかもしれません。

(1) 時代ごとに紅葉をめでたと推定された日と、現在の見ごろをまとめてみましょう。

- | | | | | | |
|----------|---|---|--------|---|---|
| ① 平安時代 | 月 | 日 | ② 鎌倉時代 | 月 | 日 |
| ③ 江戸時代後期 | 月 | 日 | ④ 現在 | 月 | 日 |

気象庁では、1953年から虫や鳥、植物の生物季節観測を行ってきました。全国の気象台と測候所の計58地点で、職員が虫や鳥をその年に初めて目視したり、鳴き声を確認したりした日付を記録していました。その目的は、

季節の進み具合や気候の変化をみるため、アキアカネ（赤とんぼ）やホタル、ツバメ、トノサマガエルなどの「初見日」のほか、ウグイスや様々な種類のセミ、エンマコオロギなどの「初鳴き日」などを観測していました。しかし、温暖化などの生活環境の変化で生き物を見つけることや、観測に適した場所を標本とする木などの確保が難しくなったため、2020年で観測をとりやめると発表しました。その後、自然保護団体や研究者の学会から観測の継続を求める声が上がリ、2021年に調査を継続する努力をするようになりました。

(2) 気象庁が虫や鳥の観測をとりやめた理由を書きましょう。

(3) 文中に出てきた鳥や虫はどの季節の生物でしょうか。

- | | | |
|-----------|--------|-------|
| ① アキアカネ | ② ホタル | ③ ツバメ |
| ④ トノサマガエル | ⑤ ウグイス | ⑥ セミ |
| ⑦ エンマコオロギ | | |

--	--	--

静岡県伊豆半島周辺の海域には、2月から3月の厳寒期に海中の水温が14度前後に下がるのにたえられず、幼魚のまま死滅してしまう魚がいます。このような暖かい海にすむ魚が海流によって流されてくるものを「季節来遊魚」あるいは「死滅回遊魚」とよんでいます。しかし近年では、暖冬の影響で海水温が下がらず、本来冬をこすことができなかつた南方種の魚が冬をこし、成長している姿が見られるそうです。海水温は年々上昇しており、南方種の越冬に限らず、これまで見ることがなかつたサンゴなども見られるようになっていきます。このまま海水温が上昇し続ければ、伊豆の海は南国の海のように変わってしまうかもしれません。

秋の味覚を代表する魚であるサンマの不漁が近年続いています。2021年、北海道釧路港で水揚げされたサンマの価格は1匹あたり2,980円となりました。例年は1匹あたり100円〜200円が相場であり、話題となりました。サンマの漁獲量は年々減少し、20年前の約3分の1程度となっています。サンマは低い海水温を好む魚のため、日本近海の海水温の上昇によつて、サンマの回遊ルートが変化したのではないかとわれています。また日本近海にやってくる前に自由に漁ができる公海上で外国の漁船によつて先に取られてしまっているのも一因といわれています。このままでは日本の食卓からサンマが消えてしまうかもしれません。

「さんま、さんま、さんま苦いか塩っぱいか。そが上に熱き涙をしたたらせて さんまを食ふはいつこの里のならひぞや」

これは作家の佐藤春夫が書いた『秋刀魚の歌』という詩の一部です。これはサンマを食べられる喜びを書いたものではありません。許されざる恋に落ちってしまった作者が、思いをよせた女性とサンマを食べたときの情景を思い

出し、一人涙を流しているという悲しい詩です。このままでは、サンマが高価になりすぎて食べられなくなり涙をこぼしてしまう。そんな未来もありうるのです。

(4) どんなことで四季の変化を感じるか、それぞれの季節ごとに、あなたが感じることを書きましよう。

春

夏

秋

冬

(5) 海水温の上昇や地球温暖化を防ぐために何をすればよいか、まとめてみましよう。

MJプラス 小4国語 作文講座 / プラスチックごみをへらすために

次の文章を読んで、プラスチックごみを減らすために、あなたはどんなことをすればよいか、二百字以内の文章で書いてみましょう。

みなさんのまわりにプラスチックの製品はいくつありますか。ちょっと見たただけでも、きっと数えきれないほど見つかるのではないのでしょうか。

このプラスチック製品による海のごれが最近問題になっています。プラスチックごみが川や側溝そくこうにすてられて海に流れ着き、太陽の紫外線しがいせんや波のはたらきで細かくくだかれ、海の魚などが飲みこんでしまつのです。貝やウミガメの体内からプラスチックの破片はへんが見つかったこともあります。その破片からた有害物質が魚などの体内にだんだんたまっていきます。そして、それを食べる人間にも影響えいさうがあるのではないかと心配されています。

コーヒーやハンバーガーのチェーン店で使ったストローは、もちろんごみとして、適切にすてられているので、海のごれの大きな原因とはなっていないません。また、プラスチック製品はカップやプラスチックスプーン、フオークやペットボトル容器、レジ袋レジ袋など、他のお店で

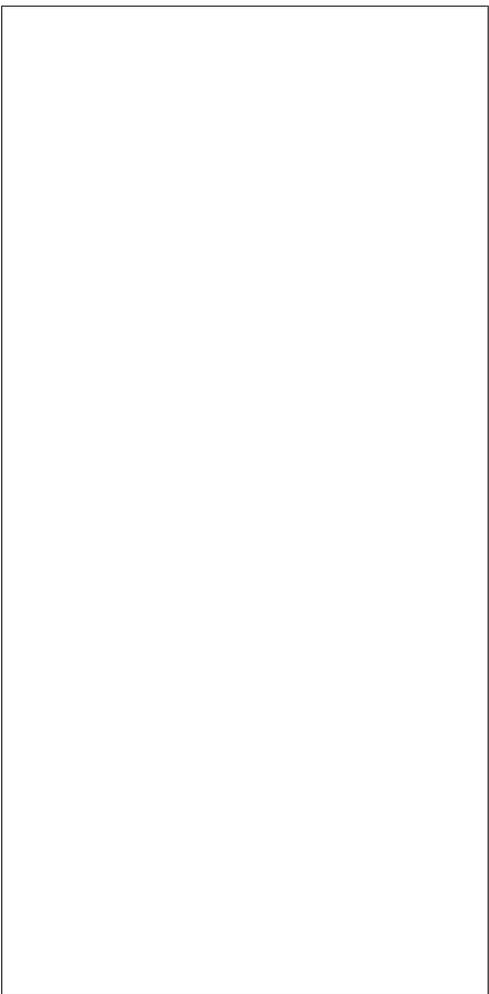
もたくさん使われています。プラスチックのストローを紙のストローに変えただけでは、この問題の解決にはなりません。それでも、このような取り組みをするのはなぜでしょうか。

それは、プラスチックごみによる海のごれについて多くの人に知ってもらうためです。紙のストローに変わった理由を知ること、プラスチックごみについての問題を知ることができます。プラスチック製品を少しでも減らしていこうという気持ちが生まれます。

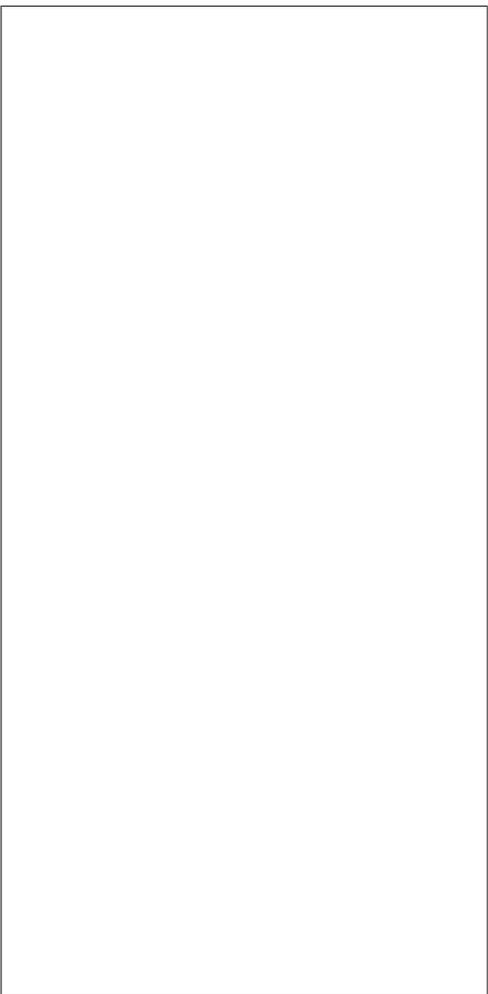


【ワークシート】

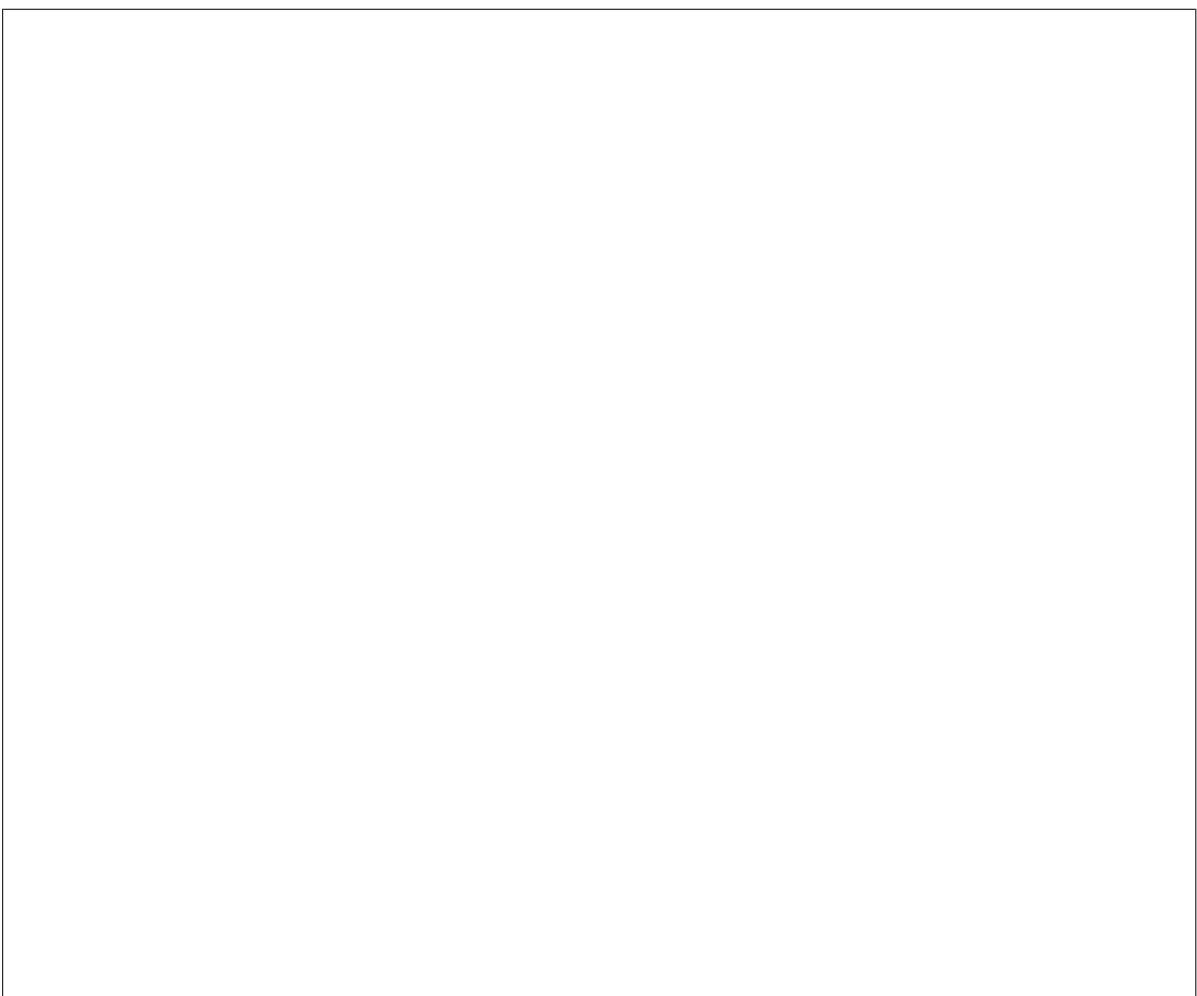
① くだんあなたは、プラスチックごみがでたらどのようになっていますか。



② プラスチックごみを減らすために始まっている取り組みをあげてみましょう。



③ プラスチックごみを減らさなければならぬ理由を考えてみましょう。



★ プラスチックごみを減らすために、あなたはどんなことをすればよいか、二百字以内の文章で書いてみましょう。



MJプラス 小4国語 解答

●日本の季節と温暖化の影響

(1) ①10月28日 ②11月7日 ③11月11日 ④11月下旬～12月上旬

(2) 温暖化などの環境の変化で生き物を見つげることや、観測に適した場所で
標本とする木などの確保がむずかしくなったため。

(3) ①秋 ②夏 ③春 ④春 ⑤春 ⑥夏 ⑦秋

(4) 省略

(5) 省略

★作文講座は添削が受けられません。

